

函館市地域公共交通計画の 令和6年度評価について

令和8年2月

函館市

1-1. 函館市地域公共交通計画について

- ・本計画は函館市が令和6年1月に、地域の公共交通政策のマスタープランとして策定。（計画期間：令和6年度～令和10年度）本市の公共交通課題として、人口減少等による公共交通利用者の減少、運転手不足等をあげ、これに対して「まちづくりと一体となった、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワーク」を構築することを基本理念としている。
- ・本計画は法律上、毎年度、施策の実施状況についての調査・分析及び評価を行うよう努めるものとされており、函館市地域公共交通協議会において構成機関の認識の共通化を図りつつ、進捗を管理して運用する必要がある。（地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第7条の2第1項）

●解決すべき公共交通の課題

- 課題①：バス路線網が複雑に入り組んでいるなど、高齢者の通院・買物、通勤・通学、観光客にとって利用しにくい
- 課題②：路線バスなどの公共交通の利便性が低いエリアが存在
- 課題③：人口減少に加え、コロナ禍により、路線バスなどの利用者数が低迷
- 課題④：バス・タクシードライバーの高齢化などにより、公共交通の担い手が不足

●函館市地域公共交通計画の基本理念

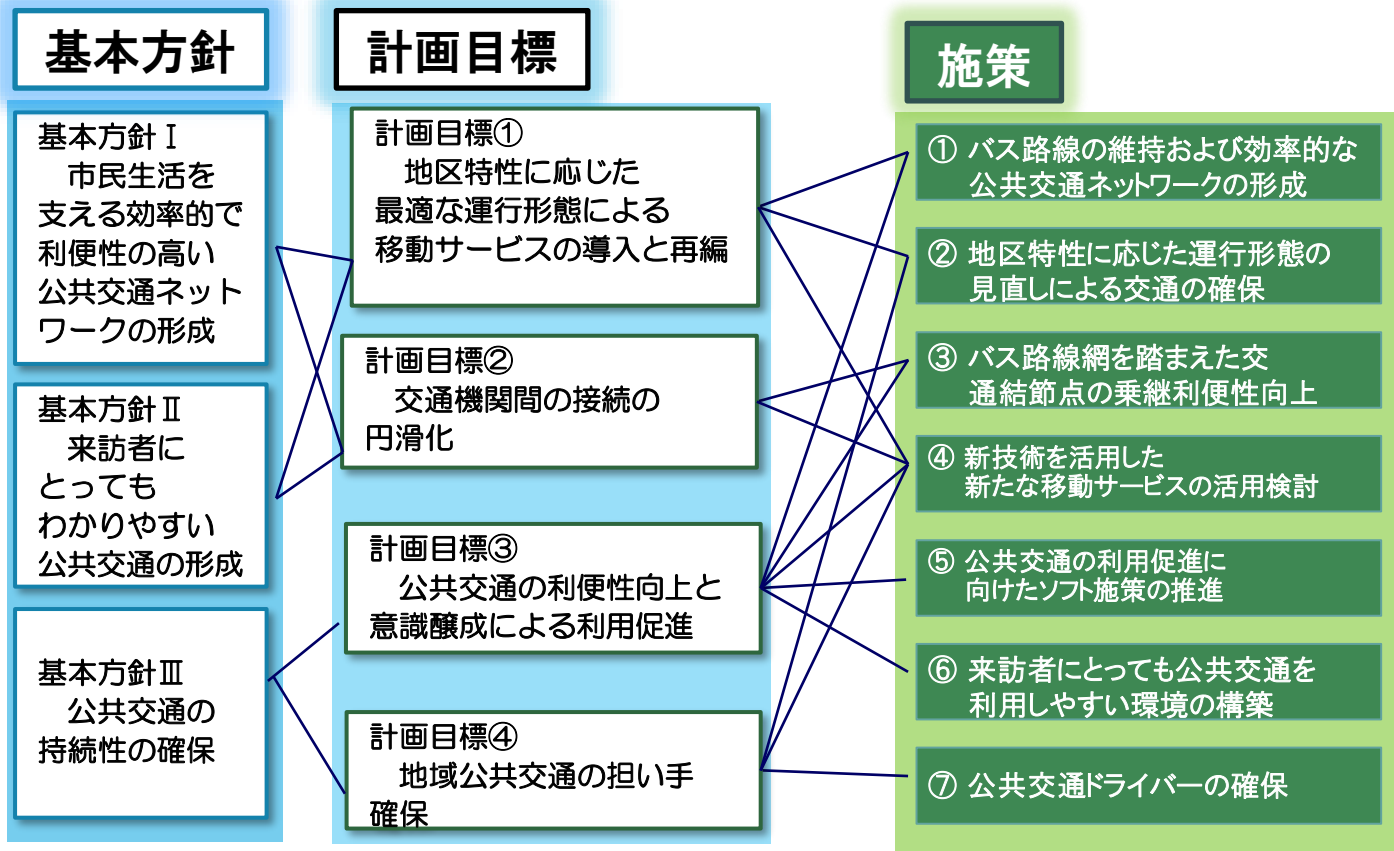
まちづくりと一体となった
将来にわたって持続可能な
公共交通ネットワークの構築

●目指すべき将来の公共交通ネットワーク



1-2. 函館市地域公共交通計画の施策・評価指標について

・本計画においては、基本理念に基づき、基本方針と計画目標を掲げ、計画目標達成のため、7種の施策に取り組むこととしている。
 ・また、計画の評価指標として5項目を挙げており、本指標にもとづきモニタリングを行う。



評価指標	目標値 (現状)
① 公共交通利用者数の減少率と人口減少率の差	利用者数減少率 ≦人口減少率
② 乗合バス事業経常収支率	75% (67.6%)
③ 主要交通結節点利用者数	5,750人/日 (5,224人/日)
④ 公共交通利用者の満足度	30% (22%)
⑤ 公共交通ドライバーの確保に向けたイベントの参加人数	30人/回

2-1. 函館市地域公共交通計画における施策

施策	取組内容		
①バス路線の維持および効率的な公共交通ネットワークの形成	1	補助金の活用によるバス路線の維持	函館市バス生活路線維持費補助金など
	2	系統の集約化などによる運行効率化	
②地区特性に応じた運行形態の見直しによる交通の確保	3	路線バス利用者が少ないエリアの運行形態の見直し	運行車両の小型化, 予約運行方式や自家用有償旅客運送など
	4	公共交通の利便性が低いエリアの解消に向けた新たな交通の導入検討	AIデマンド交通など
③バス路線網を踏まえた交通結節点の乗継利便性向上	5	情報発信の充実	スマートバス停など
	6	ダイヤ見直しによる接続性向上	路線バス同士や他の交通機関との接続性など
	7	バス停の待合環境向上	バス停付近の商業施設との連携など
④新技術を活用した新たな移動サービスの活用検討	8	AI デマンド交通の活用検討	
	9	グリーンスローモビリティ(グリスロ)の活用検討	
	10	環境に配慮した公共交通の実現に向けた新たなバス車両の導入検討	EVバスなど
⑤公共交通の利用促進に向けたソフト施策の推進	11	広報・イベント活動による公共交通の利用促進	スマートムーブデー, 乗り方教室など
	12	地域住民との意見交換会の実施	
⑥来訪者にとっても公共交通を利用しやすい環境の構築	13	ICT 技術などの活用によるシームレスな乗継情報の提供	GTFSデータの活用, MaaSなど
⑦公共交通ドライバーの確保	14	公共交通ドライバーの魅力などの発信	運転手合同就職相談会など

2-2. 施策①バス路線の維持と効率的な公共交通ネットワークの形成

- ・（函館市）函館市バス生活路線維持費補助金の交付
市内で運行する生活路線の運行赤字を対象に、国や北海道と協調しながら補助金を交付している。
- ・（協議会）地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の活用
市道高松新湊線の沿線を運行する望洋団地線（函館バス株）の維持のため、国庫補助金を活用すべく、必要となる事項について協議を行った。

■ 函館市バス生活路線維持費補助金

下記3種の補助金を支出（合計：59,334,001円）

① 地域間幹線系統維持費補助金

複数市町村にまたがる幹線系統に対し国・道にて補助金を支出しているが、その補助対象経費から除外されてしまう一部に対し、市から支出している補助金	3系統 10,394,000円
--	--------------------

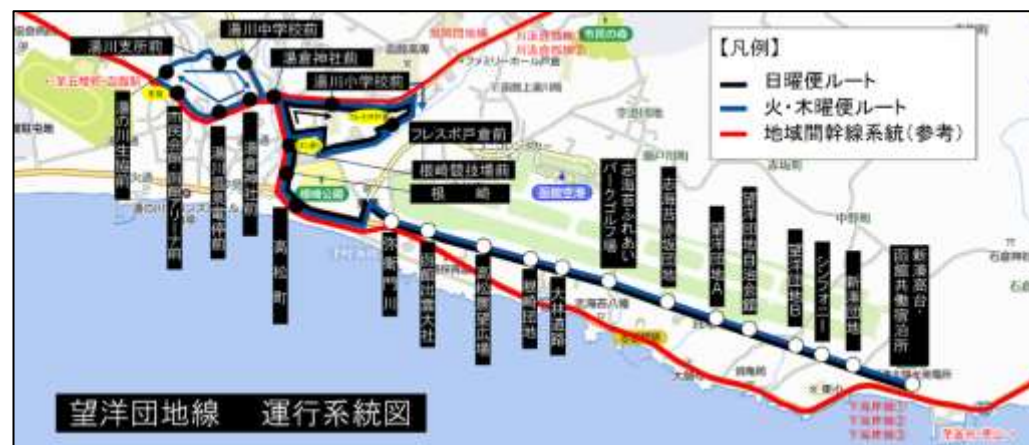
② 広域生活交通路線維持費補助金

系統キロ程が10km以上の広域的に運行する生活路線について、道と協調して支出している補助金	7系統 11,785,000円
---	--------------------

③ 函館市生活交通路線維持費補助金

経路上の全てのバス停留所が函館市内に設置されている路線の赤字額の一部に対し、市単独で支出している補助金	85系統 37,155,001円
---	---------------------

■ 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の活用



幹線系統を補完する、赤字の支線（フィーダー）の運行経費に対して国が支出している補助金。本補助金の活用にあたり必要となる、運行計画の策定や、運行後の評価に係る協議を函館市地域公共交通協議会にて協議を行っている。

2-3. 施策②地区特性に応じた運行形態の見直しによる交通の確保

施策④新技術を活用した新たな移動サービスの活用検討

- ・ (協議会) 西部地区AIデマンド交通の実証運行の実施
効率的かつ利便性の高い公共交通ネットワークを意識した、地区特性に応じた最適な運行形態導入に向けた検討・取組を進める中で、函館山麓の急な斜面に宅地が立地しており、狭隘な細街路も多く、バス停・電停までの距離が遠いなど交通上の課題を抱えていた西部地区において、AIデマンド交通の実証運行を行った。

実施主体	函館市地域公共交通協議会
運行期間	令和6年10月15日(火)～ 令和7年2月11日(火) 120日間
運行範囲	西部地区の右記黄色着色箇所 (入舟町・船見町・弥生町・弁天町・大町・末広町・元町・ 青柳町・谷地頭町・住吉町・宝来町)
運行事業者	・AI配車システム・・・(株)未来シェア ・車両運行、予約受付・・・函館第一交通(株)
運賃	大人 300円 小児・身体障がい者等 150円ほか
利用方法	・電話またはWebから予約 ・乗合運行
運行車両	タクシー車両2台
実施結果	全体予約数: 1,979件 延べ利用者数(使用座席数): 2,190人



2-4. 施策③バス路線網を踏まえた交通結節点の乗継利便性向上

・（函館バス株）スマートバス停の設置

函館駅前4番のり場および函館山山頂バスのりばへ、スマートバス停をそれぞれ1基導入し、運用を開始。これにより、観光客や地域住民に向けてリアルタイムの運行情報の提供や、観光客へのわかりやすい案内が可能となり、観光の移動がより便利になることが期待される。

●函館駅前



函館駅前4番のりば
Hakodate Sta.-mae Bus Stop No.4
現在時刻 16:49

通常運行
NORMAL OPERATION

行先	函館山頂	ロープウェイ前	函館空港
17時			
18時			
19時			
20時			
21時			
22時			
23時			
24時			
25時			
26時			
27時			
28時			
29時			
30時			
31時			
32時			
33時			
34時			
35時			
36時			
37時			
38時			
39時			
40時			
41時			
42時			
43時			
44時			
45時			
46時			
47時			
48時			
49時			
50時			
51時			
52時			
53時			
54時			
55時			
56時			
57時			
58時			
59時			
60時			

平日 西高校前行き 7:45 7:47 7:52 7:45 15:40

1 函館山登山バス
Mt. Hakodate Climbing Bus

2 ロープウェイシャトルバス
Shuttle Bus to Mt. Hakodate Ropeway

路線	運賃
函館駅前4のりば	500円
函館駅前	250円
函館駅前4のりば	250円
函館駅前	130円
函館駅前4のりば	280円
函館駅前	140円

●函館山山頂



函館山山頂バスのりば
Mt. Hakodate
現在時刻 18:36

Hakodate Sta.-mae
Mt. Hakodate

18時 10:40
19時 10:40
20時 10:40

運行状況 通常運行しています / NORMAL OPERATION

1 函館山登山バス お得り便のご案内
Mt. Hakodate Climbing Bus

- 函館山山頂
- 登山口
- 十字街
- 明治館前
- ラビスタ函館ベイ前
- 函館国際ホテル
- 東横イン函館朝市前
- 函館駅前

運賃 500円 250円

(※資料：函館バス株)

2-5. 施策⑤公共交通の利用促進に向けたソフト施策の推進

- ・（協議会，協力：函館バス(株)）バスの乗り方教室の開催
市内小学校1校にて，路線バスの利用方法に関する理解醸成やバス運転手への興味喚起を図った。
- ・（函館バス(株)）バス冒険キング等の実施
夏・冬休み期間の市内小中学生を対象とした利用促進策等を実施

バスの乗り方教室



函館バス(株)の協力により，函館市立弥生小学校にて，同校1・2年生を対象として，路線バスの利用方法やバス運転手の仕事等について説明を行ったほか，同校敷地内に路線バスを配車し，乗車方法について体験学習を実施した。

バス冒険キング等

使用例	通常中に函館バスの路線にて380円区間をご利用いただいた場合
1	バスを降りるときに乗車料金をICAS nimocaでお支払い下さい 通常料金 140円 半額料金 280円
2	お支払いいただいた料金のうち50%に相当するポイントがカードに付与されます 小学生 140ポイント (140円×50%) 中学生 280ポイント (280円×50%)
3	貯まったポイントは、「ポイント交換」をしいたことでバスのお支払いやお買い物の際に電子マネーとして使うことができます(1ポイント=1円) 小学生 140ポイント (140円×50%) 中学生 280ポイント (280円×50%)

※1 冒険キング期間中は、乗車料金は乗車料金をICAS nimocaでお支払いください。ICAS nimocaカードは、ICAS nimocaカードに付与されたポイントがICAS nimocaカードに付与され、ICAS nimocaカードに付与されたポイントは、ICAS nimocaカードに付与されたポイントとして使えます。

企画・運営/函館バス株式会社 バス事業部企画課 09138-51-3560(平日9:00-17:30)

小中学生を対象として，夏休み・冬休み期間中に函館バス車内で「記名式のICAS nimocaカードをはじめとするニモカカード」で支払った乗車料金のうち，半額が後日ポイントバックされる。

その他，函館バス(株)では，函館ポールスターにおけるバスフェスティバルの開催等，利用促進に向けた取組を行っている。

(※資料：函館バス(株))

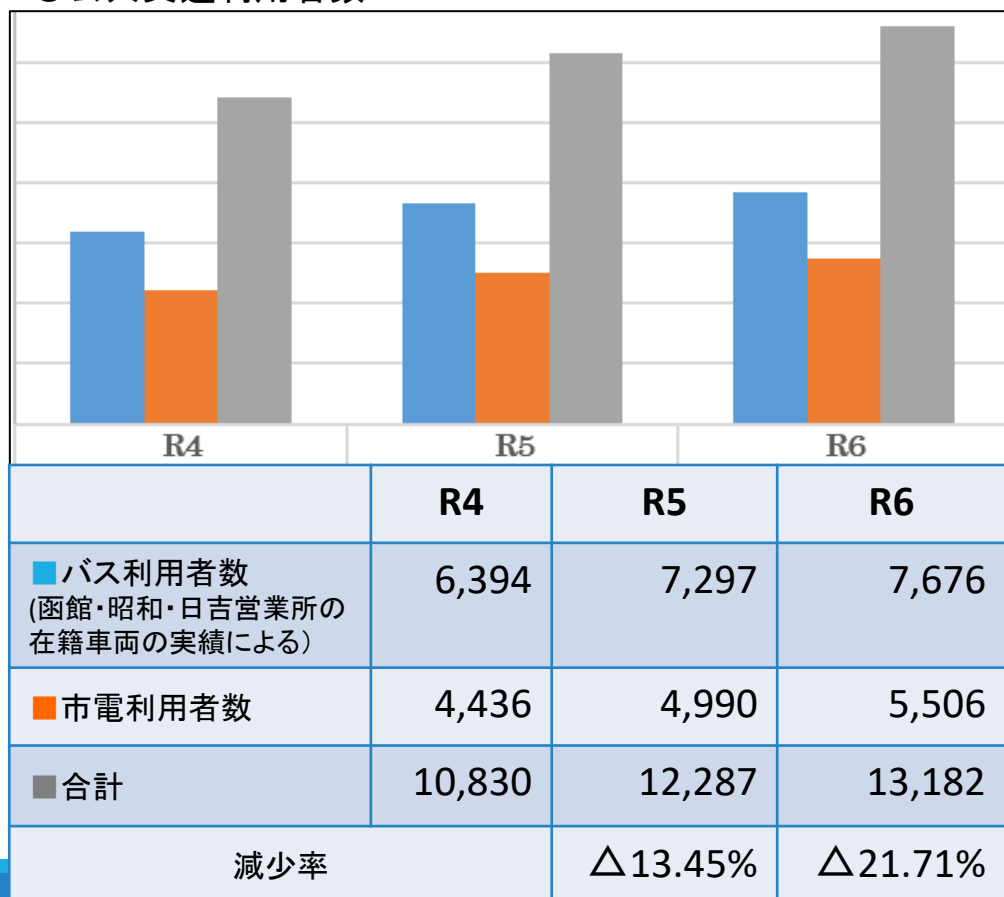
3 - 1 . 函館市地域公共交通計画における評価指標

評価指標		現状値	目標値	指標の考え方	目標値の考え方	対応する目標
1	公共交通利用者数の減少率と人口減少率の差	公共交通利用者数の減少率 >人口減少率	公共交通利用者数の減少率 ≤人口減少率 (令和10年度)	人口減少の中でも路線バスおよび路面電車利用者数の減少を抑制し、持続可能な公共交通が実現しているかを評価	基準年度（令和4年度）から算出年度の減少率を比較	①②③
2	乗合バス事業経常収支率	67.6% (令和元年度)	75% (令和10年度)	経営面から持続可能な公共交通を構築できているかを評価	函館バス（株）の乗合バス事業の経常収支率 (コロナ前の数値を基準)	①②③
3	主要交通結節点利用者数	5,224人/日 (令和3年度)	5,750人/日 (令和10年度)	主要交通拠点の利用状況の評価することで、公共交通がまちの賑わいに寄与しているかを評価	函館駅前，五稜郭，亀田支所前，湯倉神社前バス停の総利用者数（バスICカード利用者）	②③
4	公共交通利用者の満足度	22% (令和4年度)	30% (令和10年度)	本計画にて定めた利便性に関する各種施策等により、公共交通に対する市民の満足度の向上が図られているかを評価	市民を対象としたアンケート調査における、路線バス・市電に対する満足度	③
5	公共交通ドライバーの確保に向けたイベントの参加人数	—	30人/回 (令和6～令和10年度)	本計画にて定めた担い手確保に関する各種施策等により、公共交通ドライバーに対する関心度を評価	公共交通ドライバー募集に関するイベントを対象	④

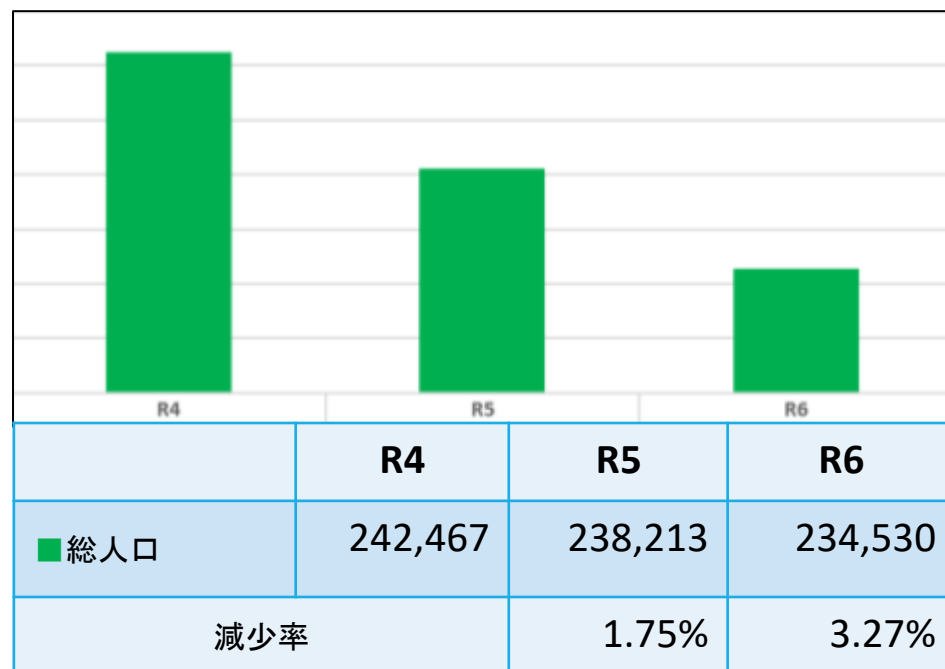
3-2. 指標①公共交通利用者数の減少率と人口減少率の差

- 公共交通利用者数（函館バス(株)の路線バスおよび函館市電）は、基準年とした令和4年度から増加傾向にあり、減少率はマイナスとなっている。
- 減少を続けている函館市の人口と比較すると、公共交通利用者数の減少率が少ないことから、令和6年度時点で目標は達成している。

●公共交通利用者数



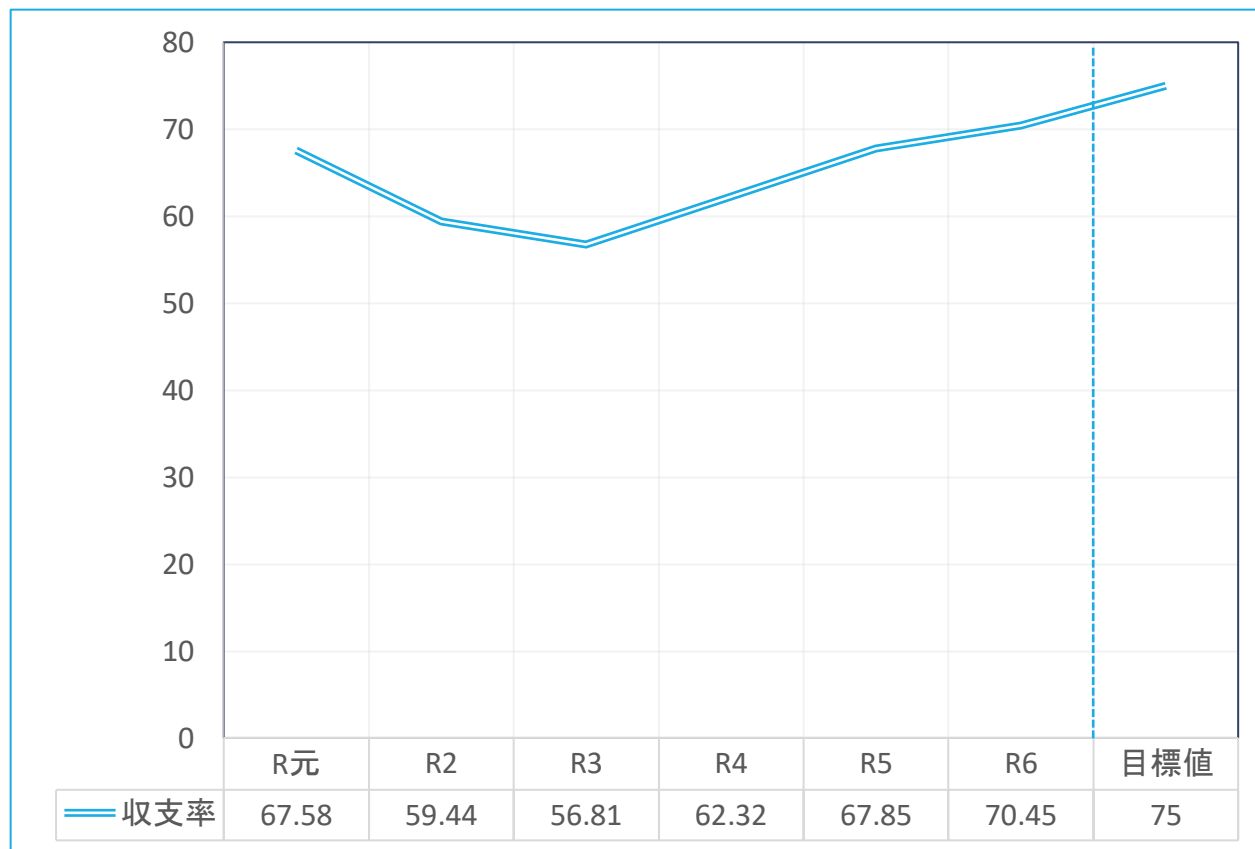
●函館市総人口



令和6年度の公共交通利用者数の減少率
▲21.71% <
人口減少率 3.27%

3-3. 指標②乗合バス事業収支率（函館バス(株)の数値）

- ・収支率は改善を続けており、基準年とした令和元年度の数値よりも上昇しているが、目標値には至っていない。
- ・今後はさらなる利用促進等により、経営面から持続可能な公共交通の構築を図る必要がある。

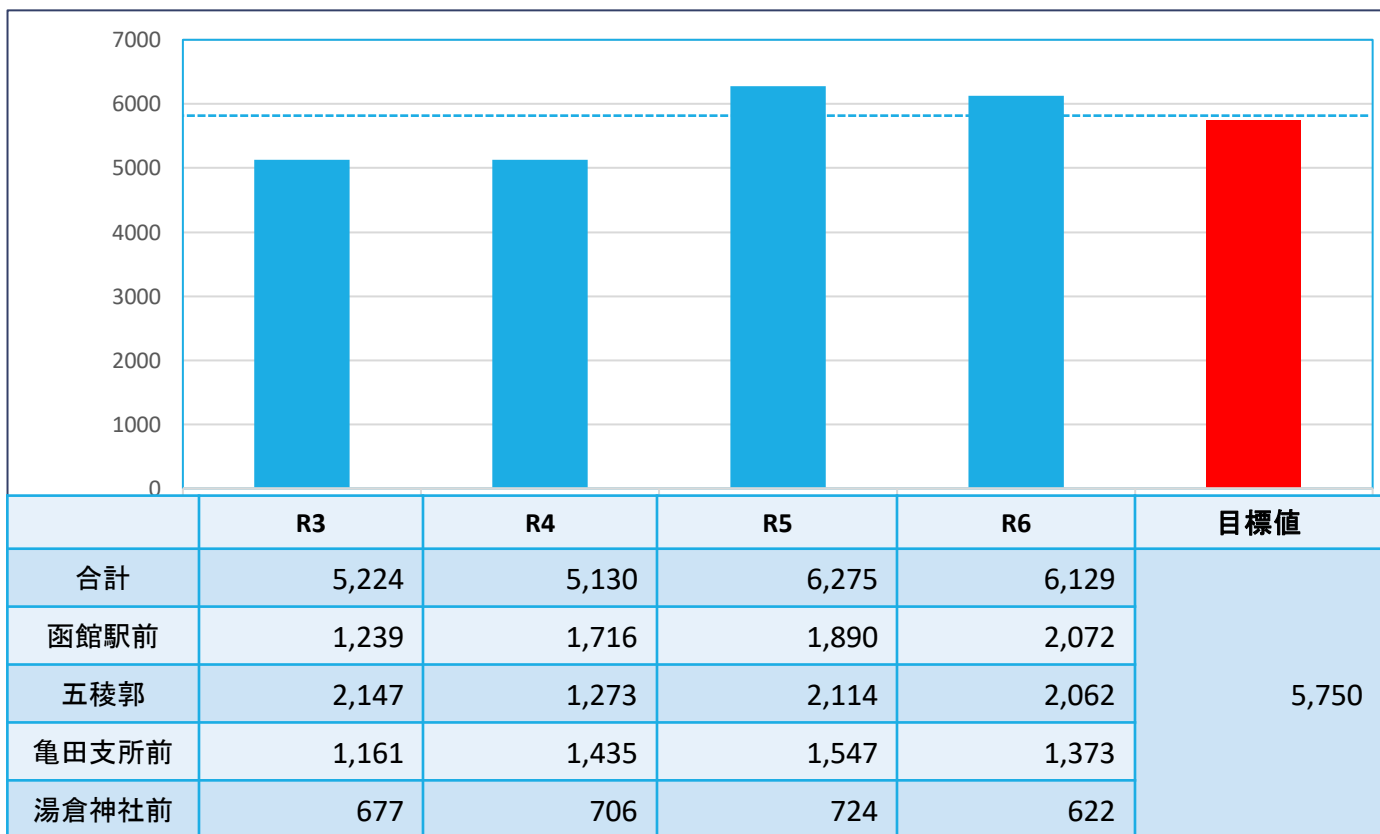


※収支率の算出方法は、
経常収益÷経常費用×100

3-4. 指標③主要交通結節点利用者数

・評価指標は、函館駅前・五稜郭・亀田支所前・湯倉神社前の主要交通拠点の総利用者数（乗降者数）としている。

・令和3年度以降増加し、令和6年度は前年度を下回ったものの、目標値を超えた状態にあることから、今後も施策を継続し、目標値以上の値の維持を図る。



※利用者数は各年度10月のnimocaデータにより、各バス停の乗降者数総数を、31日で除算した1日平均利用者数を使用

3-5. 指標⑤公共交通ドライバーの確保に向けたイベントの参加人数

- ・「バス運転手合同就職相談会」の参加者数は、全3回で計57人、1回平均では19人となり、目標値30人/回を下回っている。
- ・今後は参加者数を増やすために、開催方式や周知方法の工夫等について検討する必要がある。
- ・なお、採用者は計14名となっており、運転手の獲得には寄与している。

開催日	会場	参加者数	※採用実績
①令和6年6月30日(日)	渡島総合振興局	17	4
②令和6年10月27日(日)		18	4
③令和7年3月23日(日)	・渡島総合振興局 ・ふるさと回帰支援センター (東京都の会場と振興局をWEBでつなぎ、オンライン相談を行う他、函館市への移住相談も実施)	22 (うち東京会場1)	6 (うち東京会場0)
合 計		57	14
平 均		19	4.6

※ 周知状況

- ・函館会場：函館市広報誌掲載ほか、タウン誌・FMいるか等
- ・東京会場：同所内へのチラシ・ポスター・メルマガ等掲載

※東京会場は就職相談が1件となった一方、移住相談は4件であった。使用できる会場が、「移住」を主とした相談機関であったことから、職種を限定することとなる相談はハードルが高かったことが想定される。

3-6. 令和6年度の評価指標毎の達成状況

- ・4項目のうち（最終年度に評価を行うものを除く）、2項目についてはすでに達成されていることから、今後もその状態を維持する必要がある。
- ・一方、未達成である2項目「乗合バス事業経常収支率」・「公共交通ドライバーの確保に向けたイベントの参加人数」については、計画年度中の達成に向け、内容の改善を図りつつに施策の実施を継続する必要がある。

評価指標		現状値	目標値	令和6年度評価	達成状況
1	公共交通利用者数の減少率と人口減少率の差	公共交通利用者数の減少率 > 人口減少率	公共交通利用者数の減少率 ≤ 人口減少率 (令和10年度)	公共交通利用者数の減少率 (▲21.71%) < 人口減少率(3.27%)	達成
2	乗合バス事業経常収支率	67.6% (令和元年度)	75% (令和10年度)	70.45%	未達成 ※前年度からは上昇
3	主要交通結節点利用者数	5,224人/日 (令和3年度)	5,750人/日 (令和10年度)	6,129人/日	達成
4	公共交通利用者の満足度	22% (令和4年度)	30% (令和10年度)	※最終年度にアンケート調査を実施して評価	
5	公共交通ドライバーの確保に向けたイベントの参加人数	—	30人/回 (令和6～令和10年度)	19人/回	未達成

4 全体評価

- ・令和6年度の施策の実施状況については、西部地区A I デマンド交通の実証運行を行ったほか、運転手免許補助金の創設、バスの乗り方教室の開始など、新たな取組が実施された。
- ・評価指標においては、2項目が目標を下回っていることから、次年度以降で改善を図る必要がある。
- ・令和6年度評価について、下記のとおり取りまとめ、主務大臣あて提出したい。

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

函館市地域公共交通計画の評価等結果(令和6年4月～令和7年3月)

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
公共交通利用者数の減少率 ≤ 人口減少率	函館市バス生活路線維持費補助金の交付、路線バス乗り方教室の開催など	路線バスおよび路面電車利用者数を確認	達成 (公共交通利用者数の減少率▲21.71%) < (人口減少率3.27%)	達成状況を維持するため、施策の実施を継続する。	
乗合バス事業経常収支率 75%	函館市バス生活路線維持費補助金の交付など	函館バス(株)の乗合バス事業の経常収支率を確認	未達成 (70.45%)	収支率は前年度より上昇傾向にあるものの、目標値へ近づけるため、利用促進等の施策を実施する。	
主要交通結節点利用者数 5,750人/日	路線バス乗り方教室の開催、スマートバス停の設置など	4箇所の主要バス停の総利用者数(バスICカード利用者)を確認	達成 (6,129人/日)	達成状況を維持するため、施策の実施を継続する。	
公共交通利用者の満足度 30%	-	-	-	-	最終年度(令和10年度)に市民アンケートを実施
公共交通ドライバーの確保に向けたイベントの参加人数 30人/回	バス運転手合同就職相談会の開催・函館市公共交通運転手確保事業費補助金の支出など	公共交通ドライバー募集に関するイベントの参加人数を確認	未達成 (19人/回)	参加人数の増加へ向け、周知方法や開催方式の見直しを行う。	

(参考) 地域公共交通網形成計画 数値目標(H27~R5)の達成状況

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析
①路線バス利用者数の減少率 ≦人口減少率		函館バス(株)の路線バス利用者数を確認	達成 路線バス利用者数の減少率(2.95%) < 人口減少率(19.17%)
②乗合バス事業収支率 (81.8%)		函館バス(株)の乗合バス事業の経常収支率を確認	未達成 (67.1%)
③整備後の交通拠点利用者数 ・五稜郭周辺 2,602 人/日 ・美原周辺 1,122 人/日 ・湯川周辺 829 人/日	・交通結節機能とサービスレベルの向上による、効率的で持続可能な交通ネットワークの構築 ・交通機関相互の連携強化	4箇所の主要バス停の総利用者数(バスICカード利用者)を確認	五稜郭周辺 2,324人/日 (未達成) 美原周辺 1,397人/日 (達成) 湯川周辺 612人/日 (未達成)
④乗車カード利用率 (64.9%)		函館バス(株)における乗車カード利用率を確認	達成 (67.8%)
⑤路線バスや市電に対する満足度 (24.8%)		市民アンケート調査結果を確認	未達成 (22.4%)
⑥東部地区における 路線バスに対する満足度 (15.2%)	・地域の特性に応じた交通ネットワークの構築	市民アンケート調査を確認	未達成 (14.3%)
⑦出前講座, ノーマイカーデー, イベントの実施回数 (12回)	・新たな需要創出に向けた利用促進および市民意識の醸成	出前講座, ノーマイカーデー, イベントの実施回数を確認	未達成 (8回/年)